

(再開 午後 2時20分)

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

8番 勝山 正 議員。

(「はい、議長。8番。」の声あり)

(8番 勝山 正 議員 登壇)

1. 下高井農林高校の存続について

8番 勝山 正 議員

それでは発言が許されましたので、通告に基づきまして2点の問題について質問したいと思います。

まず、最初に下高井農林高校の存続についてでございます。

皆さんご承知のとおりであります。日本の食料自給率につきましては40%を切っているところがあります。これは、先進国の中でも最低水準であるということです。ウクライナ問題に見られるような他国の事情により、国内の食料自給に大きな影響を被っています。今後は、安全安心な食料を自国で生産する仕組みが重要なこととなってきております。したがって、自給率の向上を目指す農の時期に入ったというふうに思っております。

農林業従事者の高齢化や担い手、後継者不足により耕作放棄や荒廃地が多くなってきているのが現状であります。また、山林においても資産価値が大きく減少をしてきておる中で、山の手入れから手を引くような状況になっております。

岳北地域における農林高校の役割は次世代を狙う地域密着の学びの場であるとともに、農業を中心とした産業や文化を担う人材を育成したことから、農業後継者育成の拠点であると言われてきました。

第2期再編整備計画が今年度から適用されようとしております。生徒数の減少により、キャンパス化や統合などの再編整備が進められてきているということでもあります。在籍生徒が120人以下か、160人以下で卒業生の半数以上が入学する中学校がない状態が2年続く場合、再編対象となる中山間地存立高の該当となる可能性があると言われております。

今、農業高校生をコマーシャルなどでも、がんばれ農高生というようなこともテレビ放映もされております。農業を支える人材につきましては、全国の農林業高校、農業大学で主体として担っております。工業については農林業と一緒にありますけど、それ以外に高等専門学校があります。高専につきましては、実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関であります。この高専につきましては、国公立、私立も含めまして、全国に約57校があるというふうに聞いております。

次世代を狙う実践的創造技術者の育成（養成）を目指すには、農業に特化した農業高専もあつてはいいのではないかとというふうに思います。

地域だけでなく、県内外からの生徒がここを目指してくるということを実現できるものを担うのが、下高井農林高校ではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

また、以前先進地視察で、青森県の五所川原農林高校、三重県伊賀市の愛農学園農業高校に教育長らが施設に行ってきたということも聞いております。先進事例からヒントを得、農林高校の教育内容の充実にも「専攻科」の新設、卒業後の実践に繋がるカリキュラムを構築することと、協議会で意見がまとまり、要望書に織り込むとしましたが、その後の状況はどういうふうになってるのでしょうか。

3番目として、本年も農林高校の存続に向け、ファームスや馬曲温泉等、高校生が独自に行う事業等に引き続き支援として高校と村民、行政を結びつけるコーディネーターを配置しておりますが、このコーディネーターによる高校卒業後、4年5年もいいんですけど、4年目に地域生産者への実習や資格取得のための講習会などの実習は可能であるのでしょうか。

この3点についてお願いしたいと思います。

議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

「下高井農林高校の存続について」ということでありますが、このご質問については教育長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

関教育長。

（教育長「関 孝志」登壇）

教育長（関 孝志）

それでは、勝山正議員からご質問がありました、「下高井農林高校の存続について」3点ありましたが、1点目。「次世代を担う実践的・創造的技術者の育成を目指すには、農業に特化した農業高専もあってもいいのではないか」というご質問です。

現在、農林業に特化した農業後継者育成の役割を果たしてきている下高井農林高校ですが、やはり時代の変化に伴い、今後、ますます農林業の重要性が求められている状況があります。

これまで下高井農林高校の存続については、県教育委員会に要求・要望書を計3回提出されております。令和2年1月に岳北地域の高校の将来像を考える協議会では、県教育委員会に対し、岳北地域における高校教育の在り方について、意見・提案を行いました。その際の意見・提案が、令和2年3月付の長野県教育委員会の高校改革の編成・整備計画（第1次）の冊子に綴られています。

その中には、魅力ある高校教育の推進のために、新たな組織を設置することが望ましいというふうにあることから、岳北地域の1市3村では、引き続き「岳北地域高校魅力づくり研究協議会」を立ち上げました。そして、令和2年度の要求を令和3年3月30日に、令和3年度の要求を令和4年6月30日に県教育委員会へ要求・要望書を提出しています、そういう経過があります。

農業に特化した「農業高専」という視野に入れたらどうかということですが、これまでの要求・要望書にはそのような内容が含まれておりません。今日的な課題としては、農林高校、そして県教育委員会では、まずは農林高校が魅力ある高校であるということを多くの人に知っていただく、そして、農林高校で学びたい、そういう生徒を確保することを第一としています。

農林高校では、令和4年に学科改編が行われています。ホームページも更新されています。農林高校で学ぶ3年間で、このような資格が取れる、そういうことが中学生にとって魅力ある情報を今まで以上に発信していくことが生徒増につながっていくことと思います。そういうことを現在最重要視していますので、引き続き連携していくようにしていきたいと思っています。

2点目、「先進事例からヒントを得て、農林高校の教育内容の充実、専攻科の新設、そして卒業後の実践に繋がるカリキュラムを構築をするということを盛り込んだ要望書、その後どうなったか」というご質問です。

令和元年度に、やはり岳北地域の高校の将来像を考える地域協議会では、青森県の公立の農業高校、そして、三重県の私立の農学園を視察しています。視察された2校は、やはり地域に応じた特色ある教育活動が編成されていることを、その後の地域で開催された地域懇談会でも報告があったようです。

このような経過もありまして、農林高校では時代に応えるべく、学科改編を行ってきています。

令和4年度から、北信州の未来を創造する「北信州学」という特色ある教育課程の下、地域創造農学科の1学級募集、そして、2年生から産業創造コースと環境創造コースの2コースを専攻するようになっていきます。専門学習の深化を図り、地域連携とかSDGsの目標達成に向けた学びの充

実、さらには、進路の実現を一層支援できるようなカリキュラムに編成されています。

このように、農林高校の魅力的な教育課程が持続できることを盛り込んだ要望書を受けて、地域に密着した教育課程、さらには、多様な学習が展開されている状況を、県教育委員会も理解を示しております。

お話のあった専攻科の新設ですが、県教育委員会への要求・要望書には、3年間の修学の先に、新たに専攻科を設けることが盛り込まれています。しかし現在、その実現には至っておりません。引き続き要望を行っていくようにいたします。

3点目です。「コーディネーターによる、高校卒業後の4年目に地域生産者への実習とか、資格取得のための講演会などの実現は可能か」ということです。専攻科の新設には至っておりませんが、地域連携コーディネーターは、農林高校の木島平村の地域学習へのパイプ役です。つなげること、一緒に活動することはできますが、実習とか資格を取るためのそういう資格がないために、指導とか講義等はできない状況になっております。

議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

再質問

8番 勝山 正 議員

はい、それでは再質問をお願いしたいと思います。

今教育長がおっしゃられたとおり、そのとおりだと私は思っております。ただ、魅力ある学校にしていくには、当木島平村に学校があるわけでありますので、積極的にですね、やっぱり進めていただかなければ魅力が出てこないというふうに思っております。

本当に魅力ある学校にはどういうふうにするかということにつきましては、今回、令和4年度では再編したという話を聞いておりますけど、再編だけで果たしていいのかなということもあります。その再編した魅力っていうのをいかに発信していくことが大事なのかなというふうに思います。

過去にいろいろと質問もあった中で、一歩ずつでも進んではきているのかなというふうに私は感じました。

いずれにしても、農業高専につきましては、全国でもありません。そういう特化したですね、魅力ある学校を目指していくのであれば、農業高専というのもあっても必要じゃないかなというふうに思っております。本当にそれに特化することによって、この地域だけに限らずですね、長野県全体から、場合によっては国内各地からですね、自分の希望を持った学科を目指して、生徒数が増えてくるということも必要ではないかなというふうに私は思っております。

でありますので、農業高専につきましては、これは直ぐとはいわないと思っておりますけど、あるところではやっぱり、県の方へ要望なり、提案をしていただくとともにですね、しっかりとこの農林高校が存続するいい機会になってくればいいかなというふうに思っております。

それとさっき、三重県伊賀市の関係のね、愛農学園ですか、この高校につきましては4年生だったと思います。その中では、4年になったときに実地研修というか各地区へ出てですね、農業研修をするというような話を聞いております。それがしっかりと地域の農業に繋がっていくというようなホームページにも書かれておりました。少数精鋭の学校でありますよねきっと。

以前にも議員の方からですね、村営の下高井農林にしたらどうだというような話も出ておりますけど、なかなかそれは進まないのが現状だと思います。今、話しましたように、愛農学園みたいですね、しっかりと特化した学校を作っていくには、今の下高井農林じゃなくてはできないと私は思っております。そういうこともありますので、しっかりと魅力をしっかり伝える中で生徒が集まってくるような方策をとってほしいかなと、県の方へも要望してほしいと私は思います。

それとコーディネーターで資格がないから無理だろうという話ではありますが、基本的には先ほど

も教育長から話がありましたように、村とですね、自治体と学校とのパイプ役なんだよという話でもあります。

いずれにしても、これ、ただそれだけでやるんじゃなくてしっかりとしたね、サポートができるようなコーディネーターであって欲しいかなというふうに思います。

なぜかと言いますと、やはり3年終わったからじゃはい、違うところに就く人もいっぱいいると思うんですけど、農業についてしっかりやっている人もいると思います。ただですね、中にはまだ資格が取れてないとか、もう少し勉強したいというような人たちの中にはいますんでね、そういう場合には、こういうことをやってコーディネーターの方でできないのであれば、こういうのはあるけど学校の方で何かできないかというようなパイプ役、繋ぎ役としてやってもらうのも一つではないかなというふうに思います。

実際には今までよくね、ファームなり馬曲の方で協力した中で、良い学生との交流ができるというふうに私は思っておりますけれど、そうは言っても、もっと魅力あることをするにはね、今話したように、コーディネーターが中心になって、この地域の農家の皆さんへのアドバイスも含めた高校卒業した子たちの再度ね、勉強になるような確立もして行って欲しいと私は思っております。

資格については、どういう資格があるかわかりませんが、実際にはしっかりとできないのであれば、今話したように学校の方へ行ってこういう教育できないか、こういう資格の取得できるにはどうすればいいのかな、そのパイプ役もしっかりとね、やっていってもらうようなふうに私は考えております。

いずれにしても、学生が少なくなってしまう現状であります。少子高齢化でありますんで、少なくなってきたるんではありますけど、最後に、最後についていかもう一度言いますけれど、農業高専については、将来的に向けて人材の本当の育成する場所だというふうに私は思っておりますんで、是非ともそういうことを前向きに見ながら県の方へですね、要望していただければどうか、そこら辺を伺いたいと思います。

議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

一点、農業高専化ということについて私の考え方を述べさせていただきますが、これについては、今回の統合問題が、再編問題が起こった時点でいろいろ議論した点であります。

というのは、下高井農林高校はこの地域の子供たちの一番大きいのは受け皿でなければならないだろうと、そしてまた、この卒業後はやはりこの地域の様々な産業であったり、生活を支える人材が育成される場である、そういうふうに考えると、やはり地域の子供たちが通える高校でなければならないだろうなというふうに考えています。

ただ、先ほどありましたとおり、人口減少と、入学者が減ってくるその中で、いかに子供たち、学校を存続させるかということで考えているのは、卒業後というか卒業生だけでなく、地域でまた農業をやってみたいという希望者があれば、それらを受け入れる専攻科という形で県の方に要望してきたということでもあります。その辺を是非ご理解いただきたいというふうに思います。

卒業生、まあそんな意味もありまして、卒業カリキュラムの変更の中では、必ずしも農業ではなくて農業以外の産業でもこの地域でしっかりとその生活を支える人材を育成する場ということで、カリキュラムの中身についても様々な分野の体験なり、資格なりを取ることができる、取得することができる、そういう方向で考えておりますので、その辺はご理解いただきたいというふうに思います。

議長（萩原由一）

関教育長。

(教育長「関 孝志」登壇)

教育長（関 孝志）

農林高校の存続についてたくさんのご意見をいただいております。

農林高校には、高校地域連携推進協議会が立ち上がっています。立ち上がって日は浅いのですが、8名のメンバーがおりますが、その中にも地域連携コーディネーターが入っているんですが、その会を更に充実させていきたいというお話は何っています。今、農林業関係の方が入っているんですが、そこに商工関係の方とかいろいろいて、これから先ほど言うように、農林高校の魅力が発信できるような、そういう組織にしていきたいなという構想があるようです。ですので、そこへも勉強しながらお話をしていきたいと思っています。

さらには、昨日、学校運営協議会がございました。木島平型教育を支えるシステムとしての学校運営協議会コミュニティスクールですが、保育園、小学校、中学校、新しいメンバーに農林学校の先生を入れたらどうかと。そうすると、保育園から村内にある高校、農林高校まで一貫した連携ができるんじゃないかという貴重なご意見をいただきまして、今検討中です。

そういうことも含めて、これから農林高校との関係を、更に更に良いものにしていきたいと思っています。

以上です。

議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

再々質問

8番 勝山 正 議員

一点お願いしたいと思います。再々で申し訳ありません。

今、村長はじめ教育長の方からいろいろな意見をいただきました。

本当にこの地域を、魅力を発信していくには、今言われたとおりだと私も思います。ただ、連携をしっかりとやっていかないとですね、今まで高校の将来を考える会への地域の協議会が進んできた中においてですね、なかなか自分たちの声が届かないというか、聞こえてこないのがありますので、そこら辺についてはしっかりとですね、やっていただきたいというふうに思っております。

今、教育長から言われましたように、今度高校のね、先生も協議会の中に入って検討していくということでありますので、それ本当に充実したものにしていっていただければすごくいいんじゃないかなというふうに思います。

そこら辺についてですね、もし具体的にここまでやりたいんだっていうのがあったら、考えをお聞かせ願えればと思います。

議長（萩原由一）

関教育長。

(教育長「関 孝志」登壇)

教育長（関 孝志）

はい。「ここまでやりたいっていう具体的なことが示されたら」ということですが、お互いに教育課程を持ってそれぞれ学習していますので、学習で繋がっていくことはもちろんですが、部活動であるとか、あと、そうですね、小学校であれば草花等々の連携なんかできるかなというふうに思います。

今まではそういうことをコーディネーターが仲介してやっていたんですが、それが直に農林高校に話がいけるようになりますので、そこは風通しが良くなるかなというふうに思っています。

議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

2. 令和5年度の施政方針について

8番 勝山 正 議員

今の教育長の考え、そのとおり本当に実践していただければ、この地域がもっと活発になるのかなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは2点目でございます。

ほかの議員からもありましたけれど、村長の令和5年度の施政方針についての、先月定例会の時に報告を受けました。その中で4点について、質問をしたいというふうに思っております。

まず、1点目につきましては、飯山日赤と北信病院につきましては、この地域においては総合病院として不可欠な総合病院であります。安定的な経営のために財政支援を引き続き行うというふうに言っておりますが、高齢化が進む中で安定的な経営だけでなく、実際に必要なのはですね、地域医療の重要な施設であるということでもあります。コロナ禍であったとしても、緊急を要したときにはしっかりと対応を、治療するということですね。そのために支援をしていくと、そのために私達が支援していくんだというふうに私は考えております。

通院や在宅看護など治療受けている方でも、ほかの病院へですね、今回は先生がいないとか、いろんな面ですね、ほかの病院へ誘導されたケースもあります。今後村として総合病院はですね、しっかりと地域に根ざした病院としていくうえでは、村としての考えはどのようなものがあるか、お伺ひしたいと思います。

2点目、遊休荒廃対策として、そば振興についてでございますが、耕作面積を増やして特産化を進めるとしております。採算が取れる作物として捉えていいのでしょうか。

3点目として、カヤの平高原の魅力を多くの人に知ってもらうために、観光の資源化や山岳観光など村独自のほか、広域観光による通年観光を目指していくと言われておりますが、具体的な何かあるんでしょうか。土屋議員の方にもお答えしたと思うんですが、それ以外にあったらお願ひしたいと思います。また、池の平にあるシューネスベルクについても、カヤの平の魅力に合わせて活用していくことでありましたが、どのように活用していくのか、考えはあるんでしょうか？

4点目、今季新たに集落支援員を採用する部署があります。地域おこし協力隊での採用との違いは何なんでしょうか。今までは地域おこし協力隊という形の中で採用経過があって、その後、場合によっては集落支援員という形での採用という方法をとってきたわけですが、そこら辺の違いはどうなんでしょうか。

また、任期途中で隊員を辞職されて、村内企業に就かれた方もおられるようですが、実際にはほかへ行っただけじゃありませんので、地元就職していただけるのは一番良かったかなと思いますけど、そうは言いますが、一応任期2年という、最長3年というふうにありますので、中途での辞職については、この採用に問題はなかったか。

4点についてご質問したいと思います。よろしくお願ひします。

議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日墓正博）

それでは、最初の「総合病院の継続」ということではありますが、市町村が直接、総合病院の経営に関わるということではできません。そのため、総合病院が医師確保であったり、経営改革により将来とも地域の医療を守る中核として安定的な経営を行うための運営計画を立てて、その計画を実行するための財政的な支援を周辺市町村で行っています。そのほか、緊急を要した際の医療体制の確保については、個別にそれぞれ関係市町村が支援をしているということでもあります。

それぞれの質問に対して、担当課長に答弁させます。

議長（萩原由一）

山寄民生課長。

（民生課長「山寄真澄」登壇）

民生課長（山寄真澄）

それでは、1点目の質問に対し、村長の答弁に補足してお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、飯山赤十字病院と北信総合病院は、地域の医療を担う重要な医療機関であります。村では飯山赤十字病院と北信総合病院へ関係する市町村と連携のうえ、財政的支援を行っております。特に飯山赤十字病院については、本村のほか、飯山市、野沢温泉村、栄村の岳北1市3村で支援に取り組んでおります。

令和4年度については、村から695万400円、4市村合計6,987万円、さらに令和5年度については、追加で村から681万1,000円、4市村合計で5,474万9,000円を支援し、令和5年度村から計1,376万1,400円、4市村では計1億2,461万9,000円を支援する予定であります。

今後、病院の安定的な経営はもちろんでありますが、地域の皆さんが安心して暮らせる医療を提供できる医療機関として、その役割を引き続き担っていただけるように支援を通じて、関係市町村とともに要請しまして、医療機関と連携していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から2点目及び3点目についてお答えをいたします。

まず「そば振興についてということで、採算がとれる作物と捉えるのか」というご質問です。

そばの振興につきましても、遊休荒廃地対策として進めております。そばの特産化と併せて、荒廃防止のための農業振興公社による省力作物として栽培し、農地の維持管理といった側面もあるということに取り組んでおります。

採算ベースに乗せるためには大規模面積での栽培が必要になると考えておりますが、姉妹都市調布市とのそばでの繋がり、交流を持ちながら、複合的な効果を持ちながら進めていると捉えています。

ゆくゆくは農地を借り受けてもいいという農家がいた場合、スムーズに移行していけるという農地の維持といった効果もあると考えております。

3点目「カヤの平の活用、それとシューネスベルクの活用について」というご質問でございます。

カヤの平高原については、これから改めて有効活用していくため、力を入れていきたいと考えております。カヤの平には貴重な動植物やぶなの原生林など、貴重な自然の宝庫です。多様な教育資源としても大いに活用していかなければいけないというふうに考えております。あわせて、木島平の子供たちが訪れてもらうような取組も必要だと考えております。そのため、令和5年度より指定管理者を新たに募集し、民間の活力を生かしていただき、キャンプ場やロッジなどの施設を有効に活用した事

業展開を図っていきたいと考えております。

シューネスベルクについては、現状施設の再開には、施設改修などに多くの経費がかかる状況もありますので、村が経費をかけて活用するというのではなく、民間の企業で利用希望があれば、多様な活用もできるよう進めていきたいと考えています。

議長（萩原由一）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、私の方から4点目の「地域おこし協力隊との採用の違い」、それから「任期途中で隊員を辞職する件」についてお答えします。

集落支援員は主に市町村職員と連携し、集落の巡回や状況等を把握し、課題解決に取り組む活動を行うもので、実情を熟知した人材を採用することを基本に考えております。

地域おこし協力隊については、都市地域から過疎地域への移住定住を主な目的としておりますので、大きな差とすれば、いわゆる都市地域から来る方が地域おこし協力隊、それから集落支援員については、地域にもうすでに住まれている方が大きな違いとなると解釈しております。

また、地域おこし協力隊員が任期途中で辞職し、地域に定住すると、根ざすということについては何ら問題はないというふうに考えています。

議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

再質問

8番 勝山 正 議員

それでは再質問であります。

1点目の飯山日赤の問題でありますけど、飯山日赤につきましては、特にこの岳北地域の本当に大事な病院でございます。

ただ、私なぜこういうことを言ったっていうのは、やはり周りの市村から多くのね、資金援助をしたりしているわけでありまして。実際に治療された私は知っている人ですけどね、さっきも話したように、そこで治療しているにもかかわらず、あそこに行け、ここに行けと、俗に言うたら回しになってしまったということで、すごくその患者さんの家族からですね、すごく憤りを感じると言われてました。だから、地域医療をしっかりとやるのであれば、私はそういう人たちでもね、しっかり受け入れをしていることに対しての支援だと私は思っております。しっかりとね、そういうことをやることによった支援をしていかないと、ただ運営資金的なもので大変だからやってくんだっていうことだけじゃなくてですね、やっぱりこの地域になくはならない地域の医療機関でありますので、そこら辺をしっかりとまた踏まえていながらですね、村としての提案、村民としての提案というのも含めながらですね、今後進めていって欲しいかなというふうに思うし、私はそういうことを再度ですね、申し上げておきたいと思っておりますので、その考えをもう一度お聞かせ願えればと思います。

それとそばの関係ですけれど、確かに遊休荒廃地対策としてはすごくいいと思っております。ただ、実際にはですね、今作っているそばの畑につきましては、大小ありまして、なかなか耕作しづらいつてのが現状だと思います。

今、課長の方からありましたように、集積して、借りたいという人があれば、そちらの方へも誘導していきたいという話でありましたので、できればですね、大規模面積になるような土地の集積、これ、土地改良じゃなくて土地の集積事業によってですね、ある程度の大きな土地にして耕作していく

と、それによって作物の量も増えると思いますし、場合によっては、なかなか難しいかと思っております。特産化には繋げていけるのかなというふうに思っております。場合によってはその集積やることによって、荒廃じゃなくて、また新たな産業っていうか生まれてくる場合もありますので、そういうことも含めた中で、土地の集積についてどうなのか、お聞かせ願えればと思います。

それとカヤの平につきましては、今課長が言われたように、魅力のあるところだというふうに思っております。今まで見ますと、森林セラピーとか、いろんな形で過去にやってこられたこともあると聞いておりますので、そういう部分も含めましてですね、しっかりと、そのカヤの平に留まる、通過じゃなくてそこで何かができるというような環境を作っていくって欲しいかなというふうに思っておりますので、その点についてお願いしたいというふうに思います。

議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

はい、総合病院の安定的な経営については村としても大変重要な課題というふうに考えています。そんな意味で、先ほど申し上げましたように、医師確保であったり、運営計画に沿った事業について周辺市町村が支援をしているということでもあります。

ただ、その周辺市町村の中でも様々な考え方があるわけでありまして、それぞれ足並みの揃うところで、それぞれが負担し合うという形で支援をしております。抜本的な経営支援までそれぞれ自治体が入っていくというのは、そういう意味では中々足並みを揃えるのは難しいんじゃないかなというふうに感じております。

そのほかの質問については、担当課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（民生課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは再質問にお答えをいたします。

まず1点目「そばの関係」でございます。今、勝山議員がおっしゃったように、畑については大小あって耕作しづらいというご意見、またそれに対して集積が必要だというご意見でございます。

確かに畑地については非常に、昔からの形でありまして、大きなものと小さなもの繋がってるような形で、非常に耕作しづらいといった場所がございます。

確かに集積が必要というふうに状況はありますので、これについては所有者の同意も必要になってきますので、もし担い手の方、耕作される方で、この辺をちょっと集めたいんだがというお話があれば、村でも簡易ほ場整備の補助金等も用意してございますので、ご相談いただければと思います。

また、畑地については、今年一部のところでモデル的に少し集積をして、ほ場整備も検討している段階でありますので、そういったことをモデルにしながら、村内各地で畑作が広がっていくようにしていければというふうに思っております。

それとカヤの平のご意見であります。そこに留まる対策が必要だということでございますので、5年度から新たな指定管理者の中でそういった民間の企業のノウハウですとか、そういったものを活用していただいて、カヤの平の魅力が十分発信できるような形で運営を村としても一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

再々質問

8番 勝山 正 議員

再度質問、再々という質問です。

今課長の方から、一部を集積事業で取り組むという話がありましたけど、具体的に何をやるのかということ分かれば教えてもらいたいと思いますし、もう一点、さっきも言えばよかったんですけど、カヤの平の魅力発信の中で、今回3月中に冬山でいくという予定にもなっていたんですね。それがたまたま道路の工事の関係もありまして、まだ進んでないという話も聞きました。

そういう活用の方法も考える中でね、いかに冬にどのような形でカヤの平が活用できるかということも考えていってほしいと私は思います。

週末になりますと、うるさいくらいにスノーモービルが来まして、カヤの平へ朝から行って夕方まで帰ってこないというように動いておりますので、非常に冬山については魅力があるのかなというふうに私は思っていますので、今のカヤの平については答弁いいんですけど、さっきの集積した土地で何をどういうふうにやっていきたいという、目標みたいなものがあったら教えてもらいたいと思います。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

(民生課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

それでは、「畑の集積の関係」の再々質問にお答えをいたします。

具体的にはというお話でございます。まだ、いつ頃からどういった形でっていうのは、今検討段階でありまして、具体的に申し上げますと、内山の地区で畑地を少し耕作しやすいように整備をしたいという要望がありますので、担い手の方と一緒にどの辺をどういう形でやっていこうかというところで、県も含めて検討しているところでございます。それを一つのモデルとして、村内各地に広がっていけばいいなというふうに考えております。

以上です。

議長（萩原由一）

以上で、勝山 正 議員の質問を終わりにします。

(終了 午後 3時 3分)

議長（萩原由一）

ここで暫時休憩といたします。

再開は、午後3時10分をお願いします。

(休憩 午後3時 3分)